

「2024年9月短観（茨城県）」の解説

【判断D.I.】

- 業況判断D.I.は、非製造業が悪化した一方、製造業が改善したことから、全産業では「良い」超幅がやや拡大しました。
- 先行き2024年12月までの予測では、製造業が横ばいの一方、非製造業が悪化することから、全産業では「良い」超幅が縮小すると見込まれています。

【事業計画】

- 2024年度の事業計画をみると、業績は、前年度対比「増収・増益」となる計画です。設備投資は、前年度を上回る計画となっています。

I. 判断D.I.

1. 業況判断

- 企業の業況判断D.I.は、非製造業（前回18→今回13）が悪化した一方、製造業（同0→同7）が改善したことから、全産業（同9→同10）ではやや改善した（改善は2期振り）。
 - 全国の動き（全国短観）をみると、製造業（前回5→今回5）が横ばいの一方、非製造業（同19→同20）がやや改善したことから、全産業（同12→同14）は改善した。
 - ◇ 県内の業種ごとの主な動きをみると、製造業では、鉄鋼が悪化した一方、電気機械および輸送用機械、化学、金属製品が改善した。
 - ◇ 非製造業では、小売および対個人サービスが改善した一方、建設、卸売、宿泊・飲食サービスが悪化した。
- 先行き2024年12月までの予測では、製造業（今回7→先行き7）が横ばいの一方、非製造業（同13→同8）が悪化し、全産業（同10→同7）では悪化が見込まれている。

2. 需給・在庫・価格判断

- 国内での製商品・サービス需給判断（全産業）は、非製造業が「供給超過」幅を拡大した一方、製造業が「供給超過」幅を縮小したことから、全産業では「供給超過」幅をやや縮小（前回 $\Delta 14$ →今回 $\Delta 13$ ）。先行きについても、「供給超過」幅のやや縮小を予測（今回 $\Delta 13$ →先行き $\Delta 12$ ）。
- 海外での製商品需給判断（製造業）は、「供給超過」幅を拡大した（前回 $\Delta 14$ →今回 $\Delta 19$ ）。先行きについては、「供給超過」で横ばいを予測（今回 $\Delta 19$ →先行き $\Delta 19$ ）。
- 製商品在庫水準判断（全産業）は、「過大」超幅を拡大した（前回 14 →今回 18 ）。
- 仕入価格判断（全産業）は、「上昇」超幅が縮小した（前回 56 →今回 51 ）。販売価格判断（全産業）も、「上昇」超幅が縮小した（同 40 →同 35 ）。先行きについては、仕入価格判断（全産業）は、「上昇」超幅の縮小を予測（今回 51 →先行き 46 ）。販売価格判断（全産業）も、「上昇」超幅の縮小を予測（同 35 →同 31 ）。

3. 設備・雇用人員判断

- 生産・営業用設備判断（全産業）は、「過剰」超幅を若干拡大した（前回 2 →今回 4 ）。先行きについては、「過剰」超幅のやや縮小を予測（今回 4 →先行き 3 ）。
- 雇用人員判断（全産業）は、「不足」超幅が拡大した（前回 $\Delta 25$ →今回 $\Delta 29$ ）。先行きについても、「不足」超幅の拡大を予測（今回 $\Delta 29$ →先行き $\Delta 34$ ）。

4. 企業金融関連判断

- 資金繰り判断（全産業）は、「楽である」超で横ばい（前回 9 →今回 9 ）。金融機関の貸出態度判断（全産業）は、「緩い」超幅が若干縮小した（同 15 →同 13 ）。この間、借入金利水準判断（全産業）は、「上昇」超幅が拡大した（同 24 →同 47 ）。

Ⅱ. 事業計画

1. 売上高

- 2024年度の売上高は、製造業（前年度比 $\Delta 1.3\%$ ）が減収の一方、非製造業（同 $+2.2\%$ ）が増収となり、全産業（同 $+0.3\%$ ）では4年連続の増収となる計画（前回調査から $\Delta 2.4\%$ の下方修正）。

2. 経常利益

- 2024年度の経常利益は、非製造業（前年度比 $\Delta 1.4\%$ ）が減益の一方、製造業（同 $+23.4\%$ ）が増益となり、全産業（同 $+5.9\%$ ）では4年振りの増益となる計画（前回調査から $\Delta 9.2\%$ の下方修正）。

3. 設備投資額

- 2024年度の設備投資額（ソフトウェアを含むく除く土地投資額）は、製造業（前年度比 $+51.0\%$ ）、非製造業（同 $+30.5\%$ ）ともに増加となり、全産業（同 $+44.4\%$ ）でも2年振りの増加となる計画（前回調査から $+3.5\%$ の上方修正）。

以 上

(参考)

茨城県と全国の業況判断D. I. (全規模)の推移

